

明るい音楽。オフィスで働く社員の笑顔。

タイトルがドン！

「お金を“貯める”だけの退職金制度から、“お金を育てる”退職金制度へ！」

ナレーション：

「あなたの会社の退職金制度、“貯めて” ”渡す”だけで終わっていませんか？」

「同じ積立でも、企業型DCと退職金制度としてよく利用されている中退共では将来受け取れる退職金額がまるで違います！」

映像/ナレーション

1万円を20年間積立すると20年後が240万円溜まります。ただし、20年後は今より物価が上がっていることが想定されます。仮に毎年2%の物価上昇した場合、実質的な価値は約33%目減りします。

結果的に240万円のお金の価値は78.5万円目減りして実質的な価値は161.5万円に低下する計算です。

これではせっかく従業員の豊かな老後を実現するために積立しているお金が将来の安心に繋がらないことも、、、

これだけある企業型確定拠出年金のメリット

- ① 💰 積立金を“運用”できる → お金が働くアニメーション
- ② 👤 離職防止 → 社員が定着して笑顔で働く様子
- ③ 📈 上乗せ積立OK → 社員が給与天引きで積立、節税の吹き出し

1つ目：積立金を”運用できる”

ここで中退共と企業型DCを比較してみましょう。

アニメーションで積立額が増える。

左は240万円で止まるが、右はぐんぐん伸びて569万円に！

「例えば毎月1万円を20年間積み立てた場合...」

「中退共なら240万円。」

「でも企業型DCなら、8%で運用できた場合、**569万円**！」

「そして、なんと329万円の運用益は“非課税”！」
「同じ積立額でも、倍以上の退職金を社員に渡せるんです！」

これは、会社が積立した退職金を数ある商品ラインナップから従業員がご自身で商品を選択し、退職金を運用することが出来るためです。しっかりと運用することで実際に会社が積立した金額の2倍以上の退職金を受け取ることが出来るため、老後2000万円問題の解消にも繋がります！

2つ目：離職防止に効果抜群

中退共は従業員が退職する際に一時金として支払いされてしまうため、離職防止対策としては不十分

企業型DCの積立は60歳までは受け取ることは出来ないの、一時金を目当てとした退職を防ぐことも可能です。

それだけではありません！

企業型DCは長く在籍すればするほど複利で運用益が増えていきます。

動画で年率8%で1万円を10年積立すれば運用益は60万円、20年であれば329万円、30年であれば1049万円

3つ目：上乗せ拠出が可能

従業員の方々は会社からの積立の他に、額面天引きによる上乗せの積立が可能です。

例えば会社から1万円、従業員が会社の積立とは別に自分で1万円積立をするとした場合に決従業員が自分で積立する1万円は額面から天引きになります。

例えば額面25万円の従業員が1万円を積立した場合にその従業員は24万円の額面となり、24万円に対して社会保険料や所得税が計算されます。

例えば25万円から24万円に額面が下がると社会保険料で約3000円、所得税住民税で約600円下がるため、1万円の貯金を税金などすべて引かれた手取りからするか、額面からするかそれだけの違いで従業員様の手取りが3600円ほど増える可能性があります。

このように退職金制度を企業型DCにすることで通常の退職金制度では受けることの出来ない様々なメリットがあります。

「退職金を“貯めて”渡す”だけの時代から、自分で“育てる”退職金制度へ。」
「企業型DCで、社員も会社も、未来を豊かに。」

